

# 湘南学園だより

発行：湘南学園だより編集部



## contents



湘南学園の四季と今後の展望  
教え続けるために学び続ける  
保育の質を高めるために  
信頼される学校づくり

「海の学校」

「山の学校」

子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣表彰について

「かのや100チャレ」を例に

中高英語教育の改革と発展に向けて

教育 × グローバル化

熱烈サポートです

同窓会とチーム湘南学園

世界に向けて

湘南食育ラボの取り組み

学校法人からのご報告

理事長

学園長

幼稚園園長

小学校校長

小3学年主任

小4学年主任

小学校

中高企画主任

中高英語科主任

中学校高等学校

P T A 会長

同窓会副会長

後援会会長

湘南食育ラボ理事長

河野重男

川井陽一

古田優子

河本洋子

山田涼子

鈴木智洋

前川貴宏

吉川謙太郎

渡邊哲郎

山田美奈都

濱野文一

前川力

田辺真理

小田拓也

02

03

04

05

06

06

07

08

09

10

11

11

11

11

12





## 湘南学園の四季と今後の展望

理事長 河野重男



このたびの震災ならびに豪雨災害で被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

湘南学園でも、カフェテリアでの復興支援ランチをはじめとする様々な取り組みがなされていますが、関係の方々のご尽力にあらためて感謝申し上げますとともに、1900名を超える子供たちをお預かりする学校法人の代表者として、あらためて防災への思いを強くしております。

### 学校法人の四季

この春に湘南学園では、幼稚園60名、小学校101名、中学校208名、あわせて369名の新入生をむかえ、新学期がスタートしました。

それぞれの入園式、入学式での感動が昨日の事に様に脳裏に浮かびますが、灼熱の太陽に照らされた暑い夏、リオデジャネイロオリンピックで心が熱く燃えた夏が終わり、今年度も後半をむかえようとしています。

としての認可を受けています。

学校法人の構成要件・運用要件等は、私立学校法並びに関係法令により定められており、所轄庁より法人の基本規則である寄附行為の認可を受けた上で、法人登記を行わなければなりません。学校法人湘南学園の寄附行為は、1951年3月10日に神奈川県知事の認可を受け、その後何度かの改正を経て、現在の寄附行為となっております。

現行の寄附行為では法人役員任期を、西暦偶数年の4月1日より翌々年3月31日までの2年間と定めていますので、実質的には2年を1サイクルとした運用を行うこととなります。

春の初めに、法人の諮問機関である評議員会を構成する評議員の選出が行われます。評議員は学園長・PTA会長及び副会長・幼稚園長・小学校長・中学校長・事務長・保護者専任教職員・卒業生・学識経験者の中から、寄附行為に定められた定数が選出されます。学識経験者については任意であり、現状では選出されていません。

評議員が選出された後、4月初旬の評議員会で、理事の選任が行われます。理事は、学園長1名・PTA会長1名・学校長(幼稚園

長を含む)の中から1名・保護者評議員の中から7名・教職員評議員の中から3名が選任され、13名の理事で理事会を構成します。

その後の理事会で、理事の中から法人代表者である理事長が選任され、理事長選任後の理事会・評議員会を経て、評議員ではない保護者の中から監事が選任されて、法人の新体制がスタートします。

春から夏にかけては、まず前年度の事業報告並びに決算報告を行い、その後数多くの法人事務が目白押しです。息つくのは、夏休み中の大規模修繕工事等の決裁も終えた、8月初めごろでしょうか。

夏休みを終え、子供たちの元気な声が学園に戻ってくる頃、早くも次年度の事業計画・予算の準備が始まります。

その後、秋から冬にかけては、定常的な法人事務とともに、学校法人としての経営計画や規則類の整備等の課題に取り組み、受験シーズンを終えて、卒業生を無事に送り出した頃に、次の春がやってきます。

2年目は、役員の改選がなく、比較的落ち着いた新年度を迎えることができ、1年目とほぼ同じサイクルで法人業務が進んでいきますが、秋には、湘南学園の教育

を代表し学園体となった教育を推進していただく学園長の選任と、いうたいへん重要な出来事が待っています。

その後、受験シーズンを終えて、新たな卒業生を無事に送り出した頃には、また学校法人の新しい四季が訪れます。

### 湘南学園の中長期経営方針

2020年の夏、東京オリンピックが開催され、江の島でのセーリング競技に世界中の人々の視線が集まるころ、湘南学園は85周年を過ぎ、100周年への歩みを進めています。

学校法人では、学園100周年に向けた中長期経営計画を策定中です。

組織のマネジメントにおいては、Mission(ミッション:存在意義使命)、Vision(ビジョン:目指すべき姿輩出すべき人物像)、Value(バリュー:提供したい価値)を明確にし、共有化することが不可欠と考えられます。現在、専門家のご協力を得て、そのための基礎データのリリースに着手しているところです。

学園に集うさまざまな有識者の方々のお借りし、真に「子供たちの成長と未来のために」資する計画を早期にまとめあげたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 『教え続けるために学び続ける』

学園長 川井陽一

### 1 「全学教研」から

8月29日(月)、学園幼小中高校員全体による第6回全学教研が開催されました。

昨年度の「なぜ学ぶの？」をテーマにした話し合いの成果を踏まえ、子どもたちの成長、さらに学園全体の今後の教育活動の発展に向けて、「つたえる力を高める」自分から他者、そして世界へ」が今年のテーマとなりました。

本年度は、従来までの全体会に加え、各分科会にも助言者の先生方に加わっていただいたこともあり、話し合いがさらに活発になりました。また論議を深めることができました。

午前中の全体会では、幼稚園からは「話したい!」「伝えたい!」という思いに寄り添う保育、小学校からは「伝える力を高めるメディアの授業」、中高からは「生徒会活動でめざしたいこと」というタイトルの発表が行われました。ここでは、午前中の発表に焦

点を絞り、感じたことを述べたいと思います。

最初に幼稚園です。年少、年中、年長と年齢が進むにつれて、「つたえる力」がより大きく、また広がりをもつことが伝わってきました。

しかし、そこには、「つたえる力」の種子をまき、育み、開花させるという保育者側の関わりがあることが窺えました。

年少では、子どもの思いを想像し、その思いを保育者側が言葉にして発信する、すなわち「つたえる力」を子どもの内面に貯えていく(「種子をまく」)段階と感じました。

年中になると、遊びや生活を通しての豊かな実体験の中で、感じる心を育てていくということでした。その感じる心こそが、先生にそして友だちに話したいという思いを強くし、子ども自身の言葉の表出、すなわちつたえる力につながる力です。まさに「つたえる力」を「育む」段階と言えましよう。

年長になると、話したい思いはさらに強くなり、先生はもとより友だちに話したいということ、自分の思いを話す話し合いが行われるようになるということでした。その中で、自分の思いを話すだけでなく、相手の思いや考えを聞く力も育ってくるというのです。さらに注目したのは、話し合いのつけ、二つの方向性を見出し、より分かりやすく伝える工夫も芽生えてくるということでした。「開花」と言っても過言ではないかと思えます。

小学校は、今年度、子どもの読書活動優秀校として文部科学大臣表彰を受けました。

今回の発表では、本学園に影響を与えた小原國芳氏や澤柳政太郎氏が行なった読書に関する教育実践等の歴史的な背景、図書館にコンピュータ室を包摂した「メディアセンター」を核とした本学園小学校ならではの読書活動の話から始まりました。

つたえる力を高める実践としては、4年生「山の学校」、5年生「雪の学校」、6年生「修学旅行」という宿泊学習で学んだことをプレゼンテーションする取組についての話がありました。体験を通して学んだことをどのように言語化し、相手に分かりやすく伝える

か、具体的な指導例を通し、児童のプレゼンテーションスキルの向上を読み取ることができました。

さらに、レポートの作成、読書感想文、パワーポイント作成、絵本作成等について、それぞれ指導に則した実践例の話がありました。これらの諸活動もまたつたえる力を高めることに貢献しているの而言うまでもありません。

本年度の受賞は、長年の教育実践を踏まえ、読書を含め「つたえる力」を高めるために行なっている小学校全体の諸活動の「総和」がもたらしたものであると感じ、先生方に敬意を表する次第です。

中高では、高2生徒会総務委員6名の生徒諸君による発表がありました。昨年に続く生徒諸君の参加は大いに歓迎すべきことであると考えています。

クラス委員をまとめながら生徒全体の声を吸い上げ、吸い上げた声を還元していく。そのことにより信頼を得ると共に生徒会活動を活発にしていく様子が伝わってきました。内部での徹底的な議論を大切にし、一方で外部に目を向け視野を広げると共に、他校の生徒とも積極的に関わりをもっているという話もありました。

他校生との関わりの中で、「世の中こんなにも粘り強く活動し

ている人がいる。自分たちも新たな歩を踏み出したい」という最後の発表者の言葉は深く心に残り、同時に大いに期待をしているところです。

### 2 教え続けるために学び続ける

「教え続けるために学び続けたい」。ある小学校の先生の言葉です。

大学受験に何度も失敗し通信教育で免許を取得、教員採用試験にも三度目の受験で合格したというその方は、たゆまぬ努力で信頼の厚い先生として活躍されています。

全学教研の成果を踏まえ、教える側の学びが、さらに広がります。幼、小、中高がそれぞれに、また幼、小、中高がそれぞれの枠を越えて学び、高め合うことに学園の未来がかかっているように感じています。

「教え続けるために学び続けたい」。私自身大切にしている言葉でもあります。





# 『保育の質を高めるために』

幼稚園園長 古田優子

時代や社会の大きな変化の中で日本の幼児教育は、平成二十七年四月より『子ども子育て支援新制度』がスタートしました。

この新制度の目指すものは「質の高い幼児期の学校教育・保育を総合的に提供すること」「保育の量の拡充・確保をすること」「地域の子ども子育て支援を充実すること」です。

新制度と合わせて「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」そして「学習指導要領」の改定検討会議も始まり、日本の学校教育の大きな転換期に入っております。今後、出生率の低下・高齢化社会・グローバル社会など、様々な社会状況をふまえる中で、幼児教育の質を高め、充実させていくことが求められています。

湘南学園幼稚園では、「持続可能な社会をつくる次世代の子どもの育成」という大きな使命を担っているという自覚を教員一人ひとりが再確認した上で、『子ども達一人ひとりに丁寧な目を注ぎ、一人ひとりが輝いていく幼児教育』を目指して、教育活動に取り組みしております。

## ①主体的な「あそび」の重要性

子どもの「あそび」は、素晴らしい学びや発見がいっぱいです。

●小さな団子虫を見つけ、触ってみると「丸くなった」と目を輝かせて知らせてくれます。そのうちに、団子虫が足を動かし体を伸ばし始めると、「見て、団子虫が踊ってる。」と大喜びします。それが楽しくて、毎日のように団子虫を探して花壇や落ち葉のあるところに出かけます。

雨上がりの日に団子虫を探しに行くと、「一匹もいません。」というして、団子虫いないの？」「なんで？」と疑問を抱きながら、今までの以上に必死で探し始めます。

●園庭では、砂遊びが盛んです。手洗い場は、砂だらけです。子どもが蛇口をひねると、偶然にも水の勢いでパツと砂が丸く飛び散ります。「わあー、見て。」と、驚きの歓声です。それが楽しくて、何度も楽しんでるうちに、水をそっと出したり、勢いよく出してみたり、調整しているのです。水の勢いの違いで、砂の飛び散る輪の大きさの違いを楽しんでいます。

子どもは目の前の事、今を楽しんでいます。そこから、自発性や主体性、意欲が育まれていきます。「あそび」をもっと面白くしたい、もっと知りたい、もっと探ってみよう等の要求により、今まで以上に主体的に関わります。その関わりが深まるにつれ、「あそび」の面白さは増し、興味・関心が高まっていきます。本物の世界との出会いや、友達や保育者との関わりを通して、自分自身の世界を広げていく、こうした過程が「あそびの質」の高まりにも繋がっていきます。子ども達の興味・関心の芽を大切に育んでいきたいと思えます。

## ②主体的協同的な学びの場

年長組は七月にお泊り保育「さくらわくわくデー」を行いました。子ども達は約一ヶ月前から取り組み「どんなわくわくデーにしたいのか」から話し合いは始まり、ご飯の事、生活の流れ、買い物、寝る時の事、おねしょなどの不安な事等、それぞれの思いや考えを出し合い進めていきました。

その中で一番話題になったのが「布団」の事です。布団を家から持ってくる、一緒に寝ているお母さんや妹の布団がなくなってしまうので持ってくることはできない、という友達の違いを受けとめた

子ども達。「じゃあ、わらを敷いたら？」「板は？」「ダンボールは？」「じゃあ、どれがいいか実験してみよう。」と次々アイデアを出してきます。実際に体験すると、「わら」がいいということになり、大会議室に「わら」を敷き詰めて寝てもよいかを、事務局に行つて子ども達自身が尋ねました。事務局の方は丁寧な、会議室には「わら」を敷くことは出来ない事と、布団が沢山必要なら布団屋さんがあることを教えてくれました。子ども達は納得して布団屋さんに頼むことにしました。

これからの社会は、「思考力・判断力・表現力」が特に重要になってくる時代です。このように幼いながらも、物事を主体的に捉え、自分の思いや考えを言葉で表現し、切磋琢磨しながら力を合わせて一つの課題に向かつて解決しようとする姿は素晴らしいものです。まさに「協同」が育まれている場面です。

二期は、更に子ども同士の関係性も深まり、大きな目標に向けて協力していく、子ども主体の「協同的な学び」の場が沢山あります。子ども達のしなやかで創造性豊かな思いを受けとめ、協調性を育みながら、互いに認め合える関係性を築けるよう導いていきます。

たいと思えます。

## ③グローバルな社会に向けて

急速な情報通信技術の進展やグローバル化など、社会は目まぐるしく変化しています。これからの社会を生きる子ども達にとって幼稚園が小学校教育の前倒しということではなく、この幼児期に培わなければならない力をしっかりと育むことが重要であると考えます。

グローバルな社会に向けて、まず、日本人として豊かな日本語に触れ、日本古来の伝統行事や文化に触れ母国を知ることが大切ではないでしょうか。

また、自尊感情を高め、お互いの「個性」を尊重し合える関係性を築くことができる力を育み、人とのコミュニケーションを楽しむ気持ちや表現力を育む事。

このような力を幼児期に養っていくことが必要であると考えます。湘南学園幼稚園では、これからの社会を見据え、教員全員での「チーム保育」を推進して参ります。



# 校長に就任して思うこと

## 「信頼される学校づくり」

小学校校長 河本洋子



「夢」を描いて、具体化し、仲間とともにかたちに変えてきた道のり。いよいよこの四月からは、私が舵を取ることになりました。皆様、どうぞよろしく願っています。

### 【1】右の上は三年

職歴としては、三つ目の小学校。大学時代は、「意欲ある子どもを育てるために」文部省(当時)の「小学校の体力指定校」を研究し、二三歳で湘南学園中高に赴任しました。熱い思いの個性ある先輩方に刺激を受けながらも、担任二つの部活の顧問・審判とあまりの大変さにやりきれず、日々悩んだ若い頃が私にもありました。

「中一から中三の三年間、凄まじく成長する子どもたちに責任を持って。とにかく担任を持つべきだ。ともに頑張ろう。」と、諦めず励まし続けてくださった同僚や先輩がいたからこそ、心に変化が生まれ今があります。

中学での担任経験と高三までの生徒を教えた経験が「強み」に変わり、今も生きています。

### 【2】小学校教育の大切さ

人としての土台づくり

二〇一六年度の学校目標

「信頼される学校づくり」

「信頼され、安心して子どもを託すことのできる学校」  
「安心して学び、教えることのできる学校」

◆「基本的生活習慣」は、小学生までにつけるもの。

◆環境と読書の大切さ。

◆人と関わることで、子どもたちの成長があること。

◆小学校までの色々な体験が、引き出しの数を増やすこと。こうした初等教育の大切さを、中学校で教鞭をとっていた時に気づかされました。

「早寝・早起き・朝ご飯」が生活の基礎となること。その日その時の「生活の大切さ」を、これからは呼びかけていきます。

### 【3】小学校教育二〇二六

学期をふりかえり、子どもたちは「五」

校長として何より大事なことは、目の前にいる子どもたちをしっかりと見ることだと思います。

「学期のふりかえり」としての「中間報告会」を夏休みに教員

で行い共有しました。後半期の取り組みに繋がっていきます。

①「小学校教育基本大綱」の実現と「小学校隔週五日制」を生かした豊かな教育の前進を改めて確認し、進めていく。

②十一月五日(土)開催の湘南学園小学校「公開研究会」で、質の高い教育の展開に向け、教員の教育実践・教育研究力の向上を目指す。

③「湘南学園グローバル教育」と「湘南学園小学校グローバル教育二〇二六」を発展させる。

④総合学習をより充実・発展させ、教科「道徳」に取り組み。

⑤「食育」を推進し充実させるために、保護者とともに食育についての理解を深め、健康教育の充実をはかる。

⑥生活指導の研究として、学級づくり(学年づくり)研修を行

う。また、「小学校いじめ防止基本方針」をHPにアップし、全校で取り組む。

⑦防災・安全教育を強化する。

⑧三年目を迎える「アフタースクール」のより一層の充実・発展を目指す。

⑨募集活動を強化する。入学定員を九〇名程度から二〇〇名程度に変更。(お知り合いの皆様)に小学校の魅力をお伝えいただき、受験いただくようにご案内をお願いいたします。

⑩豊かな教育を保障するための学力補充の取り組みを進める。



### 【4】自ら発信する

「夢を描き、具体化し、語る…」  
そのために①書く ②伝える

校長日記「小学校だより」で「書く」と、始業式や終業式行事・集会・メディアで「伝える」ことで発信します。

### 【5】「家事えもん」効果

「あの二コースで得する人 損する人」で放映

五月五日(木)夜七時「子ども」の日のゴールデンタイムに、本校の食育に対する前向きな取り組みが、日本テレビの番組(全国版)で放映されました。

「食育推進」を掲げた今年、親子で「嫌いな食材を美味しく食べる」ことを考えるきっかけになりました。

メニューの「アジバーグ」・「じゃがいもとピーマンのポタージュ」・「しらすクルトン」を食べてみると、多くの方からリクエストがあり、カフェテリアランチやお楽しみメニュー、中高での学校説明会でも出食されました。

何よりも「地元の安全な食材を使って、子どもたちの味覚を育てる」ことに挑戦できたことは、嬉しいことでした。NPO法人湘南食育フボをはじめ皆様のご協力に感謝申し上げます。





## 「海の学校」



小学校三学年主任  
山田涼子

三年生は初めての宿泊学習である「海の学校」に行きました。三年生の総合は、年間を通して海をテーマに学習をします。その一環として江ノ島に宿泊し、さまざまな活動を行います。

海の学校二日目。あじいへの雨でのスタートとなり、合羽を着ながら、人工のさざえ島で磯観察をしました。小池さんのお話を聞いた後、生き物を探しました。小雨の中の活動でしたが、子どもたちは動くものを見つけると、網を持って捕まえまじた。午後には雨も上がり、アウトリガーカヌー体験をしました。200kgもあるカヌーをみんなで協力して運びました。「ハッブ、ホー」というかけ声をかけながら、引地川の河口を目指してパドルをこぎ海に出ました。潮風の心地よさを感じながら、遠くのカヌーに手を振ったり声をかけたりして楽しい活動となりました。最後に東浜に移動しビーチコーミングをした後、旅館に行きました。みんなで食べる夕食、みんなで入るお風呂。どれも初めてでいつも以上にぎ

やかな子どもたち。ご飯もよく食べました。入浴のマナーなど事前学習していましたが、実際にお風呂に入るとわからないことがたくさんあり、指導の難しさを感じました。

二日目は班で行動し江ノ島散策をしました。班で立てた計画を元に、地図を見ながらゴールのサムエル・コッキング苑を目指しました。地図を巡ってケンカが起きたり、自分の思いが伝わらず悩んだり、これからの課題も見えた体験でした。

二日間でも多くのことを体験しました。つひとつの体験は一人でもできますが、どれも友達と一緒にやったからこそ、楽しさが数十倍になったのではないかと思います。この体験学習を通して、二期は「湘南で働く人たちの学習をしていく予定です。体験を通して学ぶ楽しさをさらに味わわせたいと思います。



## 「山の学校」



小学校四学年主任  
鈴木智洋

七月六日から八日までの三日間、四年生は富士山周辺の樹海や湖を訪ね、「山の学校」を行いました。

「山の学校」は二〇二年から続く宿泊体験行事で、「海の学校」とともに、自然環境を学ぶ一つのカリキュラムとしてプログラムが組まれています。

今年度も、緑豊かなフィールドで様々な体験をしてきました。

【一日目】  
一日目はハイキングを行いました。目的地は、富士山や樹海を一望できる三湖台です。

「急な坂だよ、頑張ろう！」  
難所にさしかかる度、声を掛けあい、手を取りあつ子供達。仲間と協力しながら、一生懸命登り続けます。

「わあー！」  
三湖台に着くと視界が一気に開け、その景色に歓声が上がりました。眼下に広がる湖と、どこまでも続く緑の樹海、そして青い空……。振り返れば、富士山も目の前に迫る大きさです。

「うい、ういー」  
景色を堪能した後、富士山の歴史についてガイドを受け、皆でお弁当を食べました。

【二日目】

一日目は、「富士山に降った水はどうなるか考えてみよう」という学習を行いました。社会科学や総合の時間と、内容をリンクさせたプログラムです。樹海をトレッキングしたり洞窟の中を歩いたり。途中、溶岩に水がしみこんでいく様子や、逆に溶岩から水がしみ出してくる様子を見ているうちに、

「水は地下を通じてどこかへ行くんだね。」  
と、自然に答えが出ていました。

湧水の流れる滝を訪れ、その水に足までつかる体験もしました。水の透明感を目で確認しつつ、その冷たさを肌で感じます。  
「かき氷食べた時みたいにキンキンする！」  
子供達の表現は豊かです。

この日の夜は、恒例のキャンプファイヤーで大盛り上がり。最後の夜を楽しみました。

【三日目】

最後のプログラムは、ネイチャーラリー。野鳥の森公園を丸ごと使ったウォークラリーで、「木

に登れ」「森に隠された人工物を発見せよ」などポイントごとに課題が設けられたゲームです。子供達は、この三日間で培ったチームワークを発揮し、楽しみながらクリアしていました。

【活動を終えて】

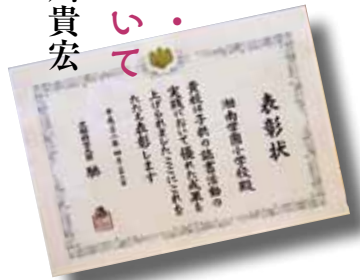
今年度は天候に恵まれ、とても気持ちよく活動することができました。子供達が、すべてのプログラムに積極的な参加を見せてくれたこと、また楽しんでくれたことが何よりも嬉しかったです。

三年生から続く宿泊体験。次年度以降も多くを学び、成長を実感してほしいと思います。



## 子どもの読書活動優秀実践校・ 文部科学大臣表彰について

### 小学校メディアセンター 前川貴宏



湘南学園小学校は、平成二十八年四月に「子どもの読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣より表彰をいただきました。これは新校舎が完成して以来、メディアセンターを中心として全校で取り組まれてきた教育活動が認められたものです。

表彰の経過ならびに、これまでの取り組みについて紹介します。

文部科学省は、平成十四年度から子どもの読書活動の推進に資するため、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている学校、図書館、団体、及び個人の方を表彰しています。

平成二十八年度は、全国で小学校七十三校、中学校三十校、高等学校三十三校、特別支援学校五校が表彰されました。本校は、神奈川県より推薦を受けて、厚木市の公立小学校、相模原の県立高等学校とともに表彰されました。

表彰へむけては、昨年度、神奈

川県の担当者と準備を重ねてきました。メディアの授業、図書委員会の活動、メディアセンターの整備状況などをとりまとめ、県より推薦を得ることができました。そして、この度の表彰に至ったのです。

表彰の理由として、三点あげることができま

す。一つ目が、学校全体で読書活動に取り組んできたことです。校舎の中心に位置するメディアセンターは、全学年の授業で利用されるようになりました。子どもたちが利用しやすいよう配架を工夫するなど様々な改善を図ってきました。さらに朝の読書の時間を設けるようになり、教職員も読書活動により意欲的に取り組んでいます。おすすめの本を選定し周知するとともに、リストの本を読んだ子や、たくさん本を借りた子を表彰しています。

二つ目が、読書活動を継続的に取り組んできたことです。前項で紹介したような活動を継続して行っています。また子どもたちの読書活動も活発です。図書委員

になった子どもたちは、日々のカウンターの仕事を担いつつ、イベントを開催してきました。音楽委員会のコンサートと合わせて、絵本の読み聞かせをしたり、飾り付けをしたりするなど、先輩の様子を見て学びながら、取り組んでいます。保護者による読み聞かせを伝統的に行っていることも、高い評価を受けています。

三つ目が、特色あるメディアの授業の取り組みです。一年生から六年生まで、週二時間の枠の中で、読書指導や情報活用能力の育成、ICT機器の利用をテーマに六年間を見通した授業を行っています。当初は試行錯誤していましたが、現在ではカリキュラムもほぼ固まり、読み聞かせやブックトーク、アニメーションなど子どもたちの育ちに合わせて取り組んでいます。

また、情報活用能力の育成を旨とし、百科事典や図書資料を使った調べ方やまとめ方なども計画的に教えています。

さて、湘南学園は大正自由教育の流れを汲む学校です。読書は、このような教育運動において大切にされてきました。

例えば、澤柳正太郎がつくった成城小学校では、国語の授業を「読方、聴方、綴方、書方、読書」に分け、これらの時間が時間割の

多くを占めたそうです。読書に限ると、二年生から六年生まで、週二時間配当していました。当時、授業は、教科書のみで十分だと考えられていました。しかし成城小学校では、すぐれた読み物を多数提供し、自由に選択することによって、読書能力を伸ばすとともに、子どもの個性を育てることができると考えていたのです。

この成城小学校の先生だったのが、本学園の初代学園長である小原國芳です。小原國芳は玉川学園の創設者として有名ですが、日本ではじめて、子ども向けの百科事典を作ったことでも知られています。個性尊重や自学自律を信条とする小原國芳にとって、百科事典や学校図書館そして読書は、教育に欠かせないものだったのです。

さらに読書は、最近の様々な調査から、子どもたちの未来志向、市民性、論理的思考、自己肯定感などと関係が深く、これからの社会に望まれる力を育むと考えられています。

他の調査では、読書習慣のある子や大人は、「忘れられない本やお気に入りの一冊がある」傾向があることもわかりました。高校生のおきに二ヶ月で四冊以上の読書をする子は、読書を楽しく感じる

習慣を維持しやすいという傾向もあるそうです。みなさんは、読書について、どう思われますか。

最近では、スマートフォンやSNSなどに時間を取られ、あまり本を読まなくなったと思うことがあります。しかし読書は、世界を広げ、感性を涵養してくれます。なにより楽しいことです。今回の表彰を契機とし、より積極的に読書活動に取り組んでいきたいと思っています。

大人も子どもも先生も、ぜひ本を手にとってみましょう。もし、読みたい本が見つからなかったら、そのときは、近くの図書館に相談してみてくださいね。





## 「かのや100チャレ」を例に

中高企画主任 吉川謙太郎

「学校の試験で良い点をとって  
いけば、後の人生はどうにかなって  
いく」ということは、もはや昔話と  
なりました。

このことは、「試験なんか、どう  
でもいい」ということではありま  
せん。「試験で良い点をとる」こと  
は、基礎学力を確かなものにする  
という意味で、依然重要であるこ  
とは言うまでもありません。その  
先が、求められているということ  
です。

簡単に言えば、基礎学力を土  
台として、「思考力・判断力・表現  
力」等を身に付けるような学び  
が必要とされているということ  
です。

ここ数年、本校がESD(持続  
可能な開発のための教育)を教育  
の旗印に掲げているのも、そのよ  
うな状況に対応するためでもあ  
ります。

さて、「学び」は学校の授業だけ  
でなされるものではありません。  
総合学習やクラブ活動などの学  
校で位置づけられている活動、さ  
らには、学校外での自主的な活動  
など、様々なものがつながりあつて  
こそ豊かになります。

そこで、今回紹介したいのが  
「首都圏の高校生が考える『鹿  
児島県鹿屋市が抱える100の  
課題』チャレンジ事業」(通称「かの  
や100チャレ」)です。

これは、中高生が、鹿屋市自身  
が抽出した多くの課題のうちの一  
つつかをとりあげ、その解決に向  
けて自分たちにどのようなことが  
できるのか議論し、実際に行動し  
ていこうというものです。昨年度  
から開始されましたが、単年度で  
終わりという事業ではありませ  
ん。課題解決まで継続されるとい  
う息の長い取り組みなので、徹底  
した関わりを持つことができま  
す。

実際に地方が抱える課題の解  
決のために知恵を絞り、いろいろな  
方々と協働しながら進めていく、  
極めて有意義な学びといえるで  
しょう。

現在、この事業には本校を含め  
て7校が参加していますが、本校  
では、呼びかけに集まった有志生  
徒8名(高1が2名、中2が6名)  
で活動しています。

彼らは、昼休みや放課後に時間

をみつけて議論を重ね、活動の最  
終目標を「『かのや深蒸し茶』を  
世界へ」と定めました。世界に拡  
がる緑茶ブームに目をつけ、鹿屋  
市の特産品であるお茶(「かのや  
深蒸し茶」)を世界に広めてい  
こうということでした。

とはいえ、鹿屋市自体の知名度が  
高いかという点、一般的には、そ  
うとは言えないのかも知れません。  
そこで、彼らは、まず校内で、お茶  
も含めた鹿屋市そのものの魅力  
をアピールしていけないかと考え  
ています。

その一環として、「湘南食育ラ  
ボ」のご協力も得て、カフェテリア  
において、鹿屋のお茶を使った新メ  
ニューの導入ができないか等とい  
うことを考え、試作やコスト算出  
等の試行錯誤をしています。(近  
いうちに、お茶やサツマイモ「かの  
や紅はるか」やカンパチという魚  
等の鹿屋の特産品を使ったメニュ  
ーが登場する可能性は大いにあり  
えます。その際は、皆さま、是非ご  
賞味ください!)

そのような中、夏休みに中間  
成果発表会がありました。本校  
は、鹿屋市より、提案内容の独創  
性や実現可能性を高く評価され

「審査員特別賞」をいただくこと  
ができました。生徒たちは、これ  
も励みとして、より積極的に活動  
をしているところです。今後の成  
果にご注目いただけますと幸いで  
す。

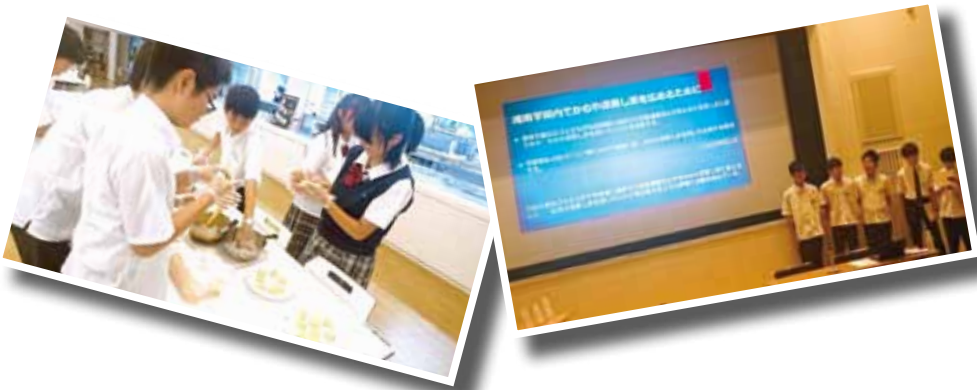
なお、この取り組みに新たに加  
わることも可能です。別の目標を  
立てて、活動していくこともでき  
ます。関心のある方は、吉川まで  
声をかけてください。

この活動は、学校外に軸足を置  
いた学びの一例といえるでしょう。  
最近では、いろいろな学びのプログラ  
ムも増えてきています。校内掲示  
板にポスターが貼られることもよ  
くあります。ちょっと関心を持つ  
て首を突っ込んでみたら、自分の  
未来が大きく拓けるといいうよう  
な何かに出会うことができるか  
もしれません。

本校では、そのようなキッカケ  
となるようなものを、できるだけ  
たくさん紹介していきたいと思っ  
ています。

生徒諸君も、ただ漠然と待つて  
いるだけではもったいないです。ア  
ンテナを張って、実は無数に転が  
っているチャンスを自分の手でつか  
み取るような姿勢を持つてもらい  
たいと思います。「これはチャン  
スなのかもしれない」と思っ  
て見る

か見ないかで、物事の見え方は確  
実に変化します。真にかけがえの  
ない中高6年間にするために、  
積極的に、前向きに、充実した生  
活を送っていただきたいと思います。  
す。





# 中高英語教育の改革と発展に向けて

中高英語科主任 渡邊哲郎

## 第2回イングリッシュキャンプを終えて

### 英語学習における動機付けの向上と英語漬けの3日間

今年度でイングリッシュキャンプも2年目を迎えることとなりました。昨年度は、中学二、三年生を対象に八名の参加でありましたが、今年度は中学全学年を対象に改め、合計百七十名もの参加となりました。

宿泊地となる山梨県富士吉田市を目指し、平塚駅よりバスに乗りすると、三日間ご指導頂く外国人講師の先生方によるバスレクがすぐに始まります。今年のバスレクの単語推測ゲームの一場面です。中学一年生の『センベイ』との回答に、『センベイは日本語！英語では何？』と外国人講師の先生に投げかけられました。『じゃあ、シヤ、パニーズクラッカー、オア、ビスケット？』と見事に言い換えによる返答がなされました。

最終日に行われたコンテスト形式によるプレゼンテーションでは、東京オリンピックを想定し、『外国人観光客にお勧めできる東京や日本』と題するタイトルが中学三年生のアドバンスコースに提示され

ました。ドイツやフランスや江ノ島などの観光地をお薦めとするプレゼンテーションが多い中、優勝となったスピーチは、崎陽軒のシウマイ弁当を題材に熱く語られたスピーチでした。日本の食品製造技術の高さを含め、シウマイ弁当の品質や魅力を横浜の観光地と結びつけて紹介したスピーチは、聴衆の誰をも引き込むプレゼンテーションとなりました。発想力の転換、そして独自の視点による優勝者のプレゼンテーションは、昨今、中等教育過程で重要視されているアクティブラーニングの醍醐味を感じさせるものでした。

イングリッシュキャンプでは、様々な英語表現を学ぶことは勿論、英語漬けの三日間を通して、英語を媒体とするコミュニケーションで極めて重要となるこうした『言い換え能力』や『プレゼンテーション能力』を磨き、楽しみながら英語学習に取り組みます。



### 国内型のイングリッシュキャンプの効果と期待値

①『英語学習の動機付けと強化』  
何故英語を学ぶのかの問いに  
対する答えを提示

- ↓ 異国のの人々との交流の喜び
- ↓ 異文化理解と留学への興味
- ↓ 進路に向けた必要性の認識
- ②『リスニング力とスピーキング力の飛躍的なスキルアップ』
- 『聞き取れない・話せない』から『分かった』通じたへの英語力の体感
- ↓ 英語漬けの時間の確保
- ↓ 未学習にとらわれることなく、自然に英語力が向上

↓ 言い換え能力の訓練による  
通じる英会話力の養成

イングリッシュキャンプの効果も端的に示すならば、上記と云って良いでしょう。二泊三日の学習では、外国人講師の出身国については様々な文化や風習を学び、最終日の発表へと至ります。各授業は四五分間で、午前三時間、午後五時間、夕食後は二時間と大変ハードです。しかし、参加者は皆様に英語を勉強と感ずることなく学習している様子が特徴的なのです。午後の授業の一部では、スポーツ活動、夕食後には歌や踊り、クイズなどを中心とする授業も組み込まれています。

生徒たちは、二五分間の休み時間になると、宿舎前に広がる広大な芝生の広場に一目散に飛び出し、野球やバトミントンなど、各々にリフレッシュし、授業との切り替えを上手くしています。



『今年も湘南学園生は集合が速い！授業数分前には遊び道具を片付け、遅れずに戻って来ますね。』ホテルや同行スタッフの方々からお褒めの言葉を数多く頂きました。

### 英語学習の更なる視点と課題

湘南学園の中高では様々な海外セミナーや国際交流プログラムが設置されています。本キャンプはその基礎となるものですが、英語に携わる者にとって大切なことは、英語の流暢さだけではないことです。ホームステイや外国人と接する場面では、最終的には、自国の文化の理解と自らの考えを明確に伝える能力が求められます。外国人が好んで食する天ぷら割烹店に招待する場合、お店を象徴する『のれん』や『家紋』にまで説明が及ぶことがあります。更に『のれん分け』など日本固有の風習に説明が発展することもあるのです。日本人は控え目で個性に欠けると指摘されることがあります。そんな時、「遠慮に対する美德」や「和と協調」を重んじる日本人特有の気質を、歴史を紐解きながら説明できると、外国語としての英語学習に二層深みが増すのではないのでしょうか。

# 「教育×グローバル化」

中高 国語科 山田美奈都

この夏、学園のグローバル教育を考えていくために、株式会社ISAの主催する「米国ワールドランキングトップ大学視察旅行」に教育振興基金で研修に行かせていただきました。西海岸から東海岸にかけて周辺の大学や高校(カリフォルニア大学バークレー校、スタンフォード大学、MIT、ハーバード大学など)を視察し、多くの学びと刺激を得ることができました。

## ■変化したアメリカの教育

「先進国である以上、教育も先進的であるべきだ」これがISA倉橋社長の開会の言葉でした。「日本の教育はグローバルスタンダードから大きく遅れている」「日本の若者を救いたい」そんな思いからこの旅行は実施されています。もちろん、アメリカの教育が全てにおいて優れているというわけではありません。格差問題は日本以上に深刻と言えますし、高額な学費が奨学金という名の借金を若者に背負わせてしまうという点も社会問題となっており、ただ、社会の流れが生み出した「教育(学び)の空洞化」に正面か

ら向き合わなければならないという動きもアメリカでは日本よりも顕著にあると感じました。

本来の意味を失い、単に人の上に立つことを目指すようになってしまった「リーダーシップ教育」、良い大学や良い企業に入るための道具と化してしまった社会奉仕活動、これらの矛盾はもはや他国のものではないでしょう。学生時代に得る様々な経験やそこにある学びは生徒自身を成長させ、生き方を選択するための土台となるべきものです。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、「教育は何のためにあるのか」を見失ってはならないと感じています。

## ■リベラルアーツ

日本でも数年前よりよく耳にするようになった「リベラルアーツ(教養教育)」という言葉に今回の旅行でも何度も出会いました。リベラルアーツを学ぶとき、学生は特定の「○○学」という切り口だけから疑問を解き明かさずとはしません。リベラルアーツでは「知」は分断されたものではないのです。また、学生たちが得るのは

「知識」ではなく「考えるための方法」です。そして「その方法は一つではないということ」です。大学や大学院を出てからも「考えること」とは出会い続けます。生徒たちも私たちも、この先想像もつかないような出来事と出会い、乗り越え、を繰り返していくのでしよう。そのスキルを身につけることと「教育」は密接に関わっているのです。



「ミドルセックス高校のサマースクール」

## ■グローバル化

また、「多様性」「共生」という言葉にも多く出会いました。アメリカの大学では多くの留学生を受け入れており、キャンパスを歩くだけでもそれは「目瞭然」でした。最近では中国を中心にアジアからの留学生が非常に多くいるそうです。

そして、これらの言葉をより深く受け止めることができたのがハ

ーバード大の入江昭終身名誉教授の講演でした。教授の「グローバル化」の見方からは学ぶことが多くありました。一九七〇年代に環境問題をはじめとした国境を越えて向き合わなければならない問題に人類が直面し始め、それまで絶対的であった「国」という単位が揺るぎ始めました。そこに技術の進歩も重なり、今や地球は「フラット化」し始めているのです。教授は「国」という境目を作ることが悲劇の始まりであったと明言し、昨今のナショナリズム的な動きに危機感を覚えておられました。「自分の国だけが」という考え方は違うと頭ではわかっていますが、オリンピックで自分の国が金メダルを取れば嬉しかったり、大相撲の横綱には日本人になってもいいと考えたり、やはり「国」という枠組みは私たちの中に強く根付いています。もちろん全てを否定すべきだとは言いませんが、「全世界的・全人類的な視野で物事を見ること」はこれからの社会で(本来ならばずっと以前から)不可欠だと考えています。

## ■湘南学園ESD

湘南学園中高は二〇一三年よりユネスコスクールに認定され、ESD(持続可能な開発のための教育)を展開する拠点となりました。E

SDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、地球上のあらゆる課題を自らの問題として捉え、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。まさに前述した「今求められる教育」が詰まっていると言えるでしょう。

そして、湘南学園中高ではすでに数十年前より「特別教育活動↓総合学習」においてこれらの取り組みの柱となるものは築かれました。それをさらに磨き、今の社会を様々な角度から観る目を養うことで、持続可能な社会と自身の生き方を創造していく力を学園生活の中で身につけていくてもらいたいと考えています。



ウェルズリーカレッジにて



「熱烈サポートです」

PTA会長 濱野文一

湘南学園は設立以教職員と保護者が協力して経営して来た無宗教の男女共学一貫校としてこれまで多くの多彩な人材を輩出して参りました。

近年はグローバル化への対応力を求められ、教育改革に着手しております。PTAは保護者の立場からこれまでの歴史の上に新しい教育プログラムが提案されて参ることを期待しています。と、同時に建学の精神を大切に参りたいと思います。

個性豊かにして  
身体健全  
気品高く

社会の進歩に貢献できる  
明朗有為な実力のある  
人間の育成」

つまり、来るべき未来に左右されることなく、自ら決断し、自由に生きる人を育てることが可能な場であることを確信しております。

幼稚園から高等学校までの一貫教育を同一キャンパスで実践出来るアドバンテージを最大限に活用し、高い学力に加えて高い倫理観と気品を有する「高い人間力」を持った人材を育てる

ために熱烈サポートして参りたいと思っております。これにより湘南学園の存在感もますますではないでしょうか。

同窓会とチーム湘南学園

同窓会副会長 前川 力

最近、学園関係者の中で何かと都合よく、チーム湘南学園で、とか、…は、…に、とか色々使い分けているような感じを受けるのは私だけでしょうか。そもそも創立80周年を前にして、今から6年前の2010年6月ご多忙中にも拘らず、中学第1期生森ビル社長故森稔氏を第2回松ぼっくりフォーラム講演者として中高アリーナにお招きしました。タイトル「湘南学園から六本木ヒルズへ、そして世界へ」、ご自分の生き様、財界人としてその先見の明、内容の素晴らしさは今でも当時の皆様の脳裏に深く印象付けられていると思えます。成功裡に終了後、懇親会の席上、当時の同窓会佐藤允会長以下、学園長をはじめ学園各関係者代表が森稔さんを中心に肩を組み学園のために皆で応援しようという約束された(記念写真参考)、この記念すべき事象が立ち上げになったのです。元同窓会会長佐藤允

「世界に向けて」

後援会会長 田辺真理



氏が「チーム湘南学園」の名付け親でもあります。学園への多額な寄附を頂き、語録の1つに「田舎の3年、江戸の昼寝」を例え、「湘南学園は国際化に後れを取ってはいけない、新しい改革を目指せ」と、今となっては貴重な遺言になりました。それより「チーム湘南学園」は、そのチームクルーにより国際化の波に向かい新しい改革を目指して既に船出してます。クルーの一員として、その意思を守り我々同窓会は覧会長のもと継承していく使命、責任があります。「チーム湘南学園は永遠です」。

ここ数年来、湘南学園においてもグローバル教育に様々な視点から力を注がれていることは周知されておりますが、それは中高生だけに止まらず園児・小

学生においても同様です。

そこで、後援会に何かお手伝いできることはないかと検討し「学園の子ども達の英語力を向上させる機会を、身近なところで提供する。」というご提案を湘南学園にさせて頂きました。

例えば、希望する生徒・児童・園児には無償で、英会話だけでなく、英語圏文化情報にも触れることが出来る様な場所を提供する。そんなことが実現できればと思っております。

具体的にこの提案が実現できるようにであれば、チーム湘南学園他団体にもご協力を頂き、プログラムを推進していきたいと考えております。

学園の多くの子ども達は、非常にコミュニケーション能力に長けております。そこに英語力が身につけば、更に世界が広がります。

世界に向けての第一歩のお手伝いが出来れば幸いです。

湘南食育ラボの取組み

NPO法人湘南食育ラボ 理事長 小田拓也

日頃より、カフェテリアの運営に格別のご支援をいただき心より御礼申し上げます。

さて、今年度の新たな取り組みとして、幼稚園のお弁当の配食を新学期から開始致しました。特に幼少期のお子さんは、歯型や食材選択などへの配慮が不可欠なところから、前年度より幼稚園の先生方からの御協力のもとに準備を進めていりました。

幼稚園へのお弁当配食の開始により、カフェテリア開設時の目標であった、幼小中高と湘南学園全体への食の提供の体制がお陰様で実現するところとなりました。

湘南学園の教育事業の一環としての「食育」の取組みは、学校との協力のもとに、季節毎の食材使用、参加型のメニュー提供などに取組み、より「食育」として、食の楽しみも実感できる内容を目指して参ります。

また、「食」の提供に当たっては「安全・安心」が大前提であり、社会的に増加しているアレルギーに対して、学校との連携を強め、より精度の高い対策に取組みます。

秋は、旬の食材にも恵まれ一年を通して、最も、食が楽しめる季節です。安全・安心のもとに食を楽しんでいただけるカフェテリアづくりに一同、励んで参ります。

## 《学校法人から》

### 【理事会報告】

これまでに、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

- 第1回定例理事会 4月9日
- 第1回臨時理事会 4月23日
- 第2回臨時理事会 5月13日
- 第1回常任理事会 5月18日
- 第2回定例理事会 5月28日
- 第3回定例理事会 6月25日
- 第4回定例理事会 7月23日
- 第5回定例理事会 8月20日

### 【主要な議題・報告等】

- ・理事長の選任について
- ・副理事長1名の選任について
- ・常務理事3名以内の選任について
- ・理事長・副理事長を代行する理事・代行順位の指名について
- ・私学共済事業団からの借入金に係る連帯保証人の変更について
- ・監事候補者の選出について
- ・平成28年度神奈川県私立中高協会の負担金等の支払いについて

- ・小学校カラー印刷機等のリース契約について
- ・平成28年度中高生徒に係る健康診断業務委託について
- ・スポーツ振興センター災害共済給付掛金の支払いについて
- ・中学校案内新版の制作費支払について
- ・平成27年度事業報告(案)について
- ・平成27年度決算報告(案)について
- ・平成27年度事業報告の確定について
- ・監事の選任について
- ・平成28年度長期修繕工事の実施について
- ・平成28年度長期修繕工事業者の決定について
- ・会計(法定) 監査の見積依頼法人の選定について
- ・給与の一部控除に関する労使協定書等の締結について
- ・米国ワールドランキングトップ大学視察企画への参加費支払について
- ・平成28年度県議会議長への請願署名の趣旨とお願いについて
- ・会計(法定) 監査法人の決定について
- ・「中長期経営戦略立案のため

のリサーチ計画立案」業者選定について

- ・学園とデータセンター間の回線強化について
- ・清掃等建物管理業務契約の更新について
- ・ストレスチェック実施規程の制定について
- ・米国ワールドランキングトップ大学視察結果について
- ・ヤングアメリカンズについて

### 【評議員会報告】

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

- 第1回評議員会 4月9日
- 第2回評議員会 5月28日

### 【主要な諮問事項等】

- ・理事の選任について
- ・監事の選任について
- ・平成27年度事業報告(案)について
- ・平成27年度決算報告(案)について
- ・監事候補者について
- ・新旧評議員・監事歓送迎会について

### 【平成28年度 長期修繕工事完了のご報告】

7月20日に着手いたしました平成28年度の長期修繕工事(幼稚園年少保育室内改修及び外壁塗装、中高クラス棟南面外壁塗装)につきまして、皆様のご協力により、事故など一切無く、計画通り8月末日を持ちまして完了いたしました事をご報告いたします。工事期間中は何かとご不便・ご面倒をおかけいたしました。ご理解とご協力を賜りました事かさねてお礼申し上げます。

### 【事務局からのご連絡】

お引越し等の事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。